

■ 国宝 薬師寺展



国宝 吉祥天女像(左) 国宝 聖観世音菩薩立像(右)ともに薬師寺展より (C)飛鳥園

■ 加賀百万石大名 -武の装い- 前田育徳会尊經閣文庫分館

■ 古美術優品展 -加賀百万石の至宝- 第2展示室

■ 祈りの造形 -絵画・彫刻- 第3・4展示室

■ 石川の工芸 I 第5展示室

- 展覧会回顧 石川県移動美術展
- 第11回 バスツアー参加者募集
- 平成25年度土曜講座のご案内
- ミュージアムレポート
- 各地で注目の展覧会
- 所蔵品紹介

国宝 薬師寺展

平成25年4月26日(金)～6月23日(日)会期中無休



東塔露盤蓋板・伏鉢

学芸員の眼

薬師寺は白鳳期を代表する寺院とされます。歴史年代では飛鳥に次いで奈良時代となりますが、美術史のうえでは、ちょうどこの時期、飛鳥の後半から奈良の初めにかけての時代が白鳳時代になります。この白鳳という名称は、金沢出身の中川忠順という人物によって名づけられました。「古社寺保存法」が明治三〇年に公布され、その運用にあたって古社寺保存会が生まれました。その中心的役割を果たしたのが中川忠順で、彼は美術史において「飛鳥・白鳳・奈良・貞観」の時代区分を提起し、「白鳳美術」の命名者として知られています。

中川によって創起された「白鳳美術」の精華ともいべき薬師寺の寺宝を、ぜひこの機会にご覧ください。



薬師寺東塔

開館三十周年の企画展は「国宝 薬師寺展」です。薬師寺は、その創建が飛鳥時代にまでさかのぼる由緒ある古寺で、天武天皇の発願で皇后の病氣平癒を祈願したことに始まるとされています。南都七大寺の一つにも数えられ、数多くの人に親しまれる寺院で、ユネスコ世界遺産にも登録されています。

平城遷都にあわせて現在ある西ノ京の地に移り、千三百年という長い歴史を持つ寺院なのですが、度重なる火災により大半の建物を失い、今日残る創建期の建造物は東塔のみとなっています。昭和の大修理で、金堂、講堂、西塔などが復興し、往時の伽藍が再現されました。現在は残された東塔を解体修理しており、そうした文化財修復事業に力を注ぐ薬師寺と、本年創刊一二〇年を迎えた北國新聞社、そして開館三〇年の当館とが実行委員会を組織して本展の開催にこぎつけました。

本展では、国宝六件、重要文化財五件を含む四十四点を出品します。一階の第7展示室では国宝「聖観世音菩薩立像」のほか、十一面観音、千手観音など「薬師寺の観音信仰」をご覧ください。第8展示室は、「法相宗と薬師寺の縁起」と題して、「国宝」慈恩大師像をはじめ玄奘三蔵、行基など薬師寺ゆかりの人物を紹介します。第9展示室は「東塔と西塔」で、「東塔伏鉢」のほか、塔内の塑像や四天王像、西塔跡出土の塑像などを展示します。二階、第2展示室では国宝「吉祥天女像」一点のみの展示です。

会期は五十九日間ととても長いのですが、ゆっくりご覧いただくためにはゴールデンウィーク前のご来館をお奨めします。また、できるだけ「兼六園シャトル」などの公共交通機関をご利用いただいて、駐車場への混雑を避けていただければと思います。



薬師寺縁起

前田育徳会尊經閣文庫分館

加賀百万石大名

一武の装い

4月21日(日)～6月23日(日)会期中無休

関連行事

薬師寺僧侶によるガイドランスを予定しています。



国宝 慈恩大師像

「金沢百万石まつり」は、加賀藩祖・前田利家が賤ヶ岳の戦いの後、天正十一年(一五八三)四月二十八日(新暦六月十四日)に尾山城(金沢城)に入城し、金沢の礎を築いた偉業をしのんで毎年開催されていますが、その時期に合わせて、前田育徳会が所蔵する加賀藩主代々の甲冑や陣羽織を公開する毎年恒例の展覧会です。歴代藩主によって工夫が凝らされた具足には妙味があり、また陣羽織には高価な羅紗やビロードを用いて、奇抜で斬新なデザインを施したものが多く伝えられています。今回の展示は、三代利常、十一代治脩、十二代斉広、十三代斉泰、十四代慶寧の甲冑と陣羽織に、九代重靖、十代

主 催／国宝薬師寺展金沢開催委員会・北國新聞社・石川県立美術館・法相宗大本山薬師寺

後 援／文化庁・石川県・石川県教育委員会・金沢市・金沢市教育委員会・財団法人石川県芸術文化協会・NHK金沢放送局・テレビ金沢・北陸放送・エフエム石川・ラジオかなざわ・ラジオこまつ・ラジオななお・金沢ケーブルテレビネット・北陸こっわかい

学術協力／奈良国立博物館

料金表

一般	中学生	小学生
一三〇〇円 (一〇〇〇円)	一〇〇〇円 (七〇〇円)	七〇〇円 (四〇〇円)

()内は二十名以上の団体

友の会会員は会員証提示により団体料金に割引



四天王像(多聞天像)

重教、十一代治脩の「軍装図録」(文化二年(一八〇五)に牧昌左衛門が、初代利家から十一代治脩まで各代の甲冑や陣羽織等を四帖に収録したもの)、鞍・鎧、さらには前田家が加賀・能登・越中の三国を領有する端緒となった、天正十二年(一五八四)の末森の戦いで、佐々成政側が戦場で置き忘れていった、いわゆる前田利家側の分捕り品である「石目筒」などを展示します。

唐冠形甲冑 11代前田治脩所有

第3・4展示室

祈りの造形

— 絵画・彫刻 —

4月21日(日)～6月23日(日) 会期中無休

第6展示室

古美術優品展

— 加賀百万石の至宝 —

4月21日(日)～6月23日(日) 会期中無休

本特集では、人が敬虔に祈る姿、願う姿を絵画・彫刻に造形した作品、祈りや願いの対象を造形した作品、そして人の敬虔な思い、自然に対する感謝や畏怖・畏敬を表現した作品を近現代の収蔵品の中からご覧いただきます。

中村晋也作「Miserere VI」は、「憐れみたまえ」のタイトルが示すとおり、人の祈る姿が端的に表現されています。全てをゆだねた女性の細く伸びた姿は、天上へと昇華するかのような神聖なイメージを醸し出しています。

一方、堀場良夫作の「紙つぶての多聞天」は祈りや願いの対象を描いた油彩画です。柳田村（現能登町）法華寺山門の鎌倉初期の作とされる朝鮮風の姿をした多聞天を描いた作品で、像の下部にわ

「国宝 薬師寺展」では第2展示室も使用するため、今回の特集は第6展示室で開催します。全国から大勢のお客様をお迎えするにあたって、何よりも石川の風土に根ざした美術工芸の粋をご覧いただきたいとの趣旨から、「加賀百万石の至宝」という観点で展示を構成しました。石川県といえば伝統工芸の盛んな地域として広く知られています。その基盤となったのは加賀藩主前田家の文化政策でした。軍事力や政治力ではなく、「文化力」によって藩の独自性を広くアピールしようという姿勢からは、新幹線開業を間近に控えた今日、新たに学ぶべきことが多々あると言えるのではないのでしょうか。

今回は、古九谷、加賀蒔絵、加賀象嵌、加賀友禅な

らじが沢山かけてあり、紙つぶての跡が多聞天に見られるのは、道中無事を祈願する人々の信仰を物語るものです。全体が褐色にまとめられています。一輪の野花のみに鮮やかな彩色が施され、これは祈願する人と多聞天への手向けと思われる。

こうした信仰をテーマとする作品や、母子像など、人が人に対しての思いを描いた作品を含め、広く『祈り』を捉えた構成で展示いたします。

主な展示作品

石川義 経堂への道／坂根克介 観音／小田根五郎 ミラノ・ドウオモ／高光一也 母子／開光市見えない三つの音／長谷川大治郎 コンポジション祈り／松田尚之 散華

ど、広く親しまれているジャンルの優品を選んで展示します。特に古九谷は、移動ケースで展示する点には是非ご注目いただきたいと思えます。第2展示室では固定ケースに展示するため、作品の裏や側面が十分にご覧いただけません。そこで、機会を設けて一部を移動ケースに展示するようにしています。今回は古九谷の名品すべてを全方位からご覧いただくという、近年なかなか実現できなかった展示を行います。写真や鏡によってではなく、実際に古九谷の表、裏、側面そして素地の量感などをじっくりとご堪能いただきたいと思えます。



堀場良夫作
紙つぶての多聞天



中村晋也作
Miserere VI



重文 伝清水九兵衛
蒔絵和歌の浦図見台 江戸17世紀

石川県移動美術展

平成二十四年度石川県移動美術展は、平成二十五年二月二十三日(土)から三月四日(月)までの十日間、石川県輪島漆芸美術館を会場に開催しました。会期初日は雪の降る厳しい天候の中にも拘わらず多くの地元の方々にお集まりいただき開会式を行い、引き続き行った当館館長の作品解説でも多くの方々から熱心に聞き入っておられ、当館のみならずわが国においても有名な漆器の町である輪島塗の地元の皆様の美術工芸への関心の高さを改めて感じました。

今回の移動美術展のサブタイトルは「加賀・能登の至宝」で、会場館が世界でも唯一の漆器専門美術館という構造もあって、今回までの県内各地

の文化ホールなど大型会場における移動展に見られたような大きな日本画や洋画作品は影を潜め、近現代の工芸品を中心とする小型の作品を中心とする展示となりましたが、陶磁器をはじめ漆工・金工・木竹工など各種工芸品と日本画・洋画など小品ながらも見応えのある作品が展示できたのではなかったかと思っております。

会期中は輪島市内の小中学校生をはじめ三〇〇〇人を超える市民の皆様に、未だ寒い期間にも拘わらずご覧いただきましたことを感謝申し上げます。また、同展に長年ご支援いただいております石川県教職員互助会へも改めて御礼を申し上げます。次第です。



会場風景

石川の工芸 I

4月21日(日)～6月23日(日) 会期中無休

石川県は、藩政時代より工芸技術が培われ、今日まで高い水準を保持しつつ受け継がれてきました。当館では、そうした確固とした基盤の上に立ち、新たな創作を展開してきた優れた工芸作家の作品を多数コレクションしています。今回は、松田権六氏をはじめとする人間国宝や、文化勲章受章者・十代大樋長左衛門氏の作品のほか、さまざまなジャンルの作品約四十五点を展示いたします。

その中で、春にちなんだ意匠を凝らしたものととして、松田権六作《流水桜文蒔絵神代櫻棗》(昭和五十二年)が注目されます。棗という小さな器体に、金平文と螺鈿の技法で桜花を流水の上に散らした構成は、古典を消化した作者ならではのものといえます。松田氏は、石川県立工業学校から東京美術

学校(現・東京藝術大学)に進み、旺盛な研究心を持って漆の可能性を追究しました。本作に見られる桜花の螺鈿の技法は、たとえば東京藝術大学が所蔵する《桜花文散し螺鈿椀(明月椀)》(桃山・江戸時代)に見られる表現であり松田氏も間近に見、研究したことでしょう。ひらひらとした桜の花弁の感じを出すために、螺鈿の貝を細かく割って表現するところなどは、まさに古典を巧みに活かしているということができません。また、身と蓋のどこを合わせても不都合がないように工夫された意匠は、用と美を意識した作者の確固とした制作理念の現れとみることもできましよう。

ちなみに木地は、人間国宝の川北良造氏が挽いて成形しています。



松田権六
流水桜文蒔絵神代櫻棗(右はその展開図)

第11回美術館バスツアー

期 日／平成二十五年五月二十六日(日)

集合時間／午前七時

発 着／金沢駅西口

参加代金／友の会会員 九、四〇〇円

会員以外 九、七〇〇円

募集定員／四十四名

◆見学地

【向源寺】

国宝「十一面観音立像」を所蔵。奈良時代〜平安時代に造られた十一面観音のなかでも最も優美なものと言われます。

【神照寺】

宇多天皇の勅願により創立された真言宗の古刹で、国宝「金銀鍍透彫華籠」を所蔵しています。

【竹生島宝厳寺】

絢爛豪華な桃山様式を示す国宝「唐門」をはじめ、日本三弁財天のひとつにふさわしい建築が見られます。

【竹生島都久夫須麻神社】

竹生島神社とも呼ばれ、かつては神仏習合により宝厳寺と一体でした。国宝「本殿」には桃山美術の壮麗さが見られます。

◆申込方法

往復はがきに左記の事項を記入し、ご応募ください。応募者多数の場合は抽選になります。

① 往復はがきの裏面に「美術館バスツアー希望」と明記し、氏名・年齢・性別・郵便番号・ご住所・お電話番号・会員番号（友の会会員のみ）をお書きください。

② 返信はがきの表面には返信先をはっきりとお書きください。

③ 返信はがきの裏面には何も書かないでください。

◆応募先

〒九二〇一〇九六三

金沢市出羽町二一

石川県立美術館バスツアー係

応募締切／五月十日(金)必着

※応募者一名につき、往復はがき一通でのご応募ください。

※行程にフェリーによる移動や長い急な階段が含まれます。

乗り物に弱い方、脚に自信のない方はよくご検討の上お申込みください。

平成二十五年 土曜講座のご案内

平成二十五年度も、六月二十九日(土)を皮切りに当館学芸員による「共通テーマ」と「自由テーマ」による土曜講座を開催します。

共通テーマは、本年度が当館開館三十周年の記念の年であり、春・秋・冬に大型の企画展を予定していることをはじめ、各分野で魅力ある特別陳列や特集展示を計画しており、それら各展示に係り、展示作品をさらに詳しく解説するなど、展示全体について深く取り扱った講座です。展示のご鑑賞と併せご利用いただきませうご案内申し上げます。

また学芸員が日頃行っている独自の研究や興味を持って調べている事項を扱った自由テーマの講座も予定しております。

各講座とも土曜日の午後一時三十分から当館講義室で開講し、聴講無料、事前申込不要です。多くの皆様のご来館をお待ち申し上げます。

ミュージアムレポート

キッズ☆プログラム—お姫様のくらし—



感じてもらうためのキッズ☆プログラムの、平成二十五年度も行う予定です。多数の方のご参加をお待ちしております。

三月三日(日) 前田育徳会尊經閣文庫分館で展示の「前田家の婚礼調度」を鑑賞する、小学生親子対象のキッズ☆プログラム、「お姫様のくらし」が行われました。展示室に並ぶ黒漆地に葵紋松唐草蒔絵で統一された調度から、姫君たちの身だしなみの道具、化粧道具を見つけ出すことからスタート。それぞれの道具の用途を想像してみたり、大人の女性の証である、お歯黒や眉そりなどの風習も学びました。次にお姫様としてのたしなみの中で、特に重要視されていた和歌や物語といった文学の教養に関わる道具探しや、くずし字に関するクイズにも挑戦しました。最後は姫たちが楽しんだ遊びの体験です。その遊びの中でも特に盤双六は子どもたちにも保護者の方にも関心が高く、ご家族で楽しむことができたという好評でした。このような展示作品を身近に

各地で注目の展覧会

東京国立博物館

東京都台東区上野公園

「国宝 大神社展」

四月九日(火)～六月二日(日)

伊勢神宮の式年遷宮を機に、神社本庁をはじめ、日本全国の神社の全面的な協力により、神社の宝物や日本の神々に関する文化財を総合的に鑑賞できます。

京都市美術館

京都市左京区岡崎円勝寺町

「リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝」

三月十九日(火)～六月九日(日)

リヒテンシュタイン侯国の国家元首が、五〇〇年以上にわたって収集したヨーロッパ美術の名画、工芸品が一同に並びます。

国立西洋美術館

東京都台東区上野公園

「ラファエロ」

三月二日(土)～六月二日(日)

ルネサンスを代表する画家ラファエロの、ヨーロッパ以外では初となる大規模な展覧会。二十点以上のラファエロ作品が集結します。

大阪市立美術館

大阪市天王寺区茶臼山町一八十二

「ボストン美術館 日本美術の至宝」

四月二日(火)～六月十六日(日)

東京、名古屋、九州の各会場を通して来場者一〇〇万人を超えた展覧会の大阪展。ボストン美術館所蔵の日本美術の至宝の数々を鑑賞できます。

根津美術館

東京都港区南青山六―五―一

「国宝燕子花図屏風」

四月二十日(土)～五月十九日(日)

コレクションの中から、尾形光琳作国宝「燕子花図屏風」をはじめとする琳派作品、琳派の影響をうけた同時代の作品をあわせて鑑賞できます。

名古屋美術館

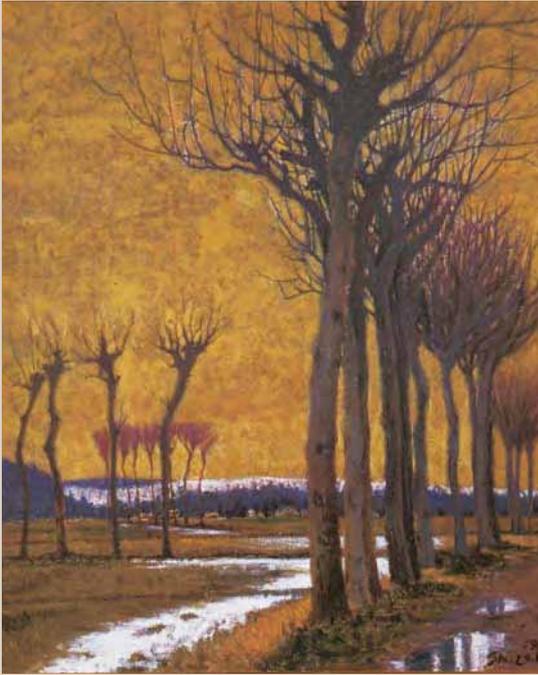
名古屋市中区栄二―十七―二十五

「上村松園展」

四月二十日(土)～六月二日(日)

上村松園の一人の画家として、女性としての生き方に焦点を当てて、作品を紹介。東海圏では九年ぶりとなる、本格的な回顧展です。

村田 省蔵 むらた・しょうそう 昭和4年(1929)～



作者は平成五年に新潟県の長岡市と旧岩室村(現新潟市)を旅し、稲架木が立ち並ぶ風景に出会い、魅了されました。稲架木は田のあぜ道に沿って、たもやはんの木を植えて、稲の収穫時に木々に横木を渡して稲の乾燥に利用するものです。かつては農村風景としてよく見られたのですが、機械化が進んで現在では不要のものとなってしまいました。「失われゆく大地」と人の関わりをキャンバスにとどめた「こうした思いが作者を駆り立て、以後十数年に渡り稲架木をテーマとして取り組むことになるのでした。本作は様々に描き続けられてきた稲架木シリーズを代表する一作です。

冬の終わり、凜として立つ稲架木の列を前景、中景、後景に配し、田の隅や山の稜線に残る白い雪がアクセントをなしています。実に広大な空間です。そして大きく画面を占める空には金箔を貼った上に、黄土色を施して複雑な質感を作り上げています。この空の色は、かつて実りの秋に稲架木に架けられた黄金色の稲穂の束をイメージしたものなのでしょう、豊作を願う人々の思いが込められているようです。

村田省蔵 昭和四年金沢市生まれ。二十五年金沢美術工芸専門学校洋画科卒業。師、小糸源太郎。現在、日展顧問、日本芸術院会員。

本作は四月二十六日から第3、第4展示室で開催の特集「祈りの造形」に展示しています

次回の展覧会 会期:6月28日(金)～7月21日(日)会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室	第4展示室	第5展示室	第3・6展示室
近代の絵画	器の美 -ガラス、陶芸、漆芸-	すわる・かたち ～人体彫刻～	人間国宝のわざ	新収集品展

ご利用案内

コレクション展観覧料
一般 350円(280円)
大学生 280円(220円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション
展示室無料の日(5月は6日)

5月の開館時間
午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
午前10:00～午後7:00 年中無休

5月中は無休です

毎週水曜日は
全館ポイント
プラスデー

Meiカード
通常ポイント

+ 3%
ポイントプラス

※催事場、地階食品売場などご奉仕品は、通常通りのポイントとさせていただきます。詳しくは売場係員におたずねください。

MEITETSU
MIZA
めいてつ・エムザ
金沢・むさし社 TEL代表(076)260-1111
http://www.meitetsumza.com/
10時～20時 ●地階レストラン街・書籍は21時まで

石川県立美術館だより
第355号(毎月発行)
2013年5月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/